

未来に歌い継ぐ、ふるさと讃歌

第32回「交響詩ひめじ」

合唱コンクール

参加団体募集



水本 紗恵子 / 絵

日時 令和4年(2022年)2月6日(日) 13:00開始

会場 パルナソスホール(姫路市立姫路高等学校音楽ホール)

部門 小学生・中学生の部 / 高校生・一般の部

参加料 無料

申込締切 令和3年(2021年)12月19日(日) 必着

第32回「交響詩ひめじ」合唱コンクール 募集要項

「交響詩ひめじ」合唱コンクールは、姫路市制百周年を記念して1989年に制作された「交響詩ひめじ」を、末永く、広く歌い継いでいくことを目的としています。

日時 令和4年(2022年)2月6日(日) 13:00開始

会場 パルナソスホール(姫路市立姫路高等学校音楽ホール)

部門 第1部……………小学生・中学生の部
第2部……………高校生・一般の部

参加料 無料

演奏曲目 課題曲と自由曲

①課題曲……………合唱組曲「ひめじ」 川口汐子作詩・池辺晋一郎作曲
第1章 姫路のあけぼの
第2章 城一千姫によせて
第3章 こどもの祭
第4章 栄光の世紀へ

※第1章から第4章のうち、いずれか1章を選択

②自由曲……………5分以内

審査員 池辺晋一郎……………「交響詩ひめじ」作曲者、姫路市文化国際交流財団芸術監督
洲脇 光一……………兵庫県合唱連盟最高顧問
林 裕美子……………声楽家

賞 最優秀賞……………賞金5万円(部門ごと各1本)
優秀賞……………賞金3万円(部門ごと各1本)
池辺晋一郎特別賞……………賞金5万円(全体から1本)

申込方法 参加申込書に必要事項を記入の上、郵送、E-mail、または持参にてお申し込みください。

申込締切 令和3年(2021年)12月19日(日)必着

お問い合わせ パルナソスホール
〒670-0083 兵庫県姫路市辻井九丁目1番10号
TEL: 079-297-1141 E-mail: parna@himeji-culture.jp

注意事項

- 歌唱人数は46人以内とします。
- 原則、左右2m、前後2mの間隔を確保してコンクールを進行します。
- 不織布マスクを正しく着用した上での歌唱を統一ルールとします。
※体質や疾患など、特別な理由により不織布マスクの着用が困難な方については個別に対応します。
※マスクの下にフレーム等を使用することも可能。
(ただし、鼻と顎のところに隙間ができない形状・サイズのものを使用すること)
※今後の状況により開催内容が変更になる場合がございます。
新型コロナウイルス感染症予防対策及び、コンクール開催に伴う注意事項の詳細について、最新情報をパルナソスホールのウェブサイトにてご確認ください。
- 状況に応じて客席の人数を制限する場合があります。



第32回「交響詩ひめじ」合唱コンクール 参加申込書

団体名等	ふりがな		
	団体名 (学校・クラブ等)		
	ふりがな		
	代表者名		
	ふりがな		
	連絡者名		
	現住所 〒		
TEL() FAX()			
携帯電話			
E-mail(<input type="checkbox"/> PC <input type="checkbox"/> 携帯電話)			
部門等	<input type="checkbox"/> 小学生・中学生の部 <input type="checkbox"/> 高校生・一般の部 <input type="checkbox"/> 混声合唱 <input type="checkbox"/> 女声合唱		
演奏曲目	課題曲	<input type="checkbox"/> 第1章 姫路のあけぼの <input type="checkbox"/> 第2章 城一千姫によせて <input type="checkbox"/> 第3章 こどもの祭 <input type="checkbox"/> 第4章 栄光の世紀へ	ふりがな
			指揮者
	自由曲	ふりがな	(課題曲と異なる場合のみ記載)
		曲名 (分)	ふりがな
指揮者			
	ふりがな	伴奏者	
	作詞者		
	ふりがな	伴奏者	
	作曲者		
プロフィール等	出場人数(合唱) 男性()名、女性()名 <small>※歌唱人数46人以内名</small> 指揮者・伴奏者を含め 合計()名		
コンクールでのアナウンス用コメント	最近の主な活動、特色(アピールポイント)等(200文字程度)		

※アナウンスの際、一部変更させて頂く場合があります

申込締切

令和3年(2021年)12月19日(日)必着

申込先

〒670-0083 兵庫県姫路市辻井九丁目1番10号
 パルナソスホール「交響詩ひめじ」合唱コンクール 係
 E-mail : parna@himeji-culture.jp

交響詩ひめじ

作詩 川口 汐子
作曲 池辺 晋一郎

「交響詩ひめじ」は、姫路市制百周年を記念して、制作されました。市民のだれもがいつでもどこでも演奏でき、歌い続けられるためには、どのような編成でも、また一部分でも演奏可能なものであることが望ましいと考え、合唱組曲の形式を採用しました。作詩は、ふるさとを愛する心を織り込み「姫路」の名を世界へと飛翔させるため、何よりも地元を熟知されている歌人の川口汐子氏に、作曲は、音楽を愛する人々の心に響くものを求めて、世界的にも著名な作曲家である池辺晋一郎氏に依頼したものです。市民の間で末永く愛され、親しまれるふるさと讃歌として歌い継いでいきます。

第一章

姫路のあけぼの

やまなみの いずこよりくる
聴き澄ませ ふるさとのうた
うなばらの いずこよりくる
聴き澄ませ ふるさとのうた
ふるさと ひめじ

播磨なる くにのもなかに
そそりたつ 五層の天守
しらすぎの いこえる城ぞ
ありあけの 雲にせまれり

山川の目覚める刻ぞ
しのめの ひかりかざろい
連なる 広峯・増位
峯々の みどりぞいづく

いにしへの神が投げたる
琴ありき 丘となりたり
いにしへの 神が立ちたる
丘ありき その丘まろし

ゆりかもめ 白く憩える
市川の流れば澄みて
若鮎は 波にきらめき
夢前の せせらぎ清し

さざり立つ 飾磨の入江
わたつみの 網干のみなと
瀬戸内の 島影いくつ
さやかに 朝あけてゆく

うつくしき 朝のやまなみ
聴き澄ませ ふるさとのうた
うつくしき 朝のうなばら
聴き澄ませ ふるさとのうた
ふるさと ひめじ

第二章

城―千姫によせて

しらすぎの 城を仰げば
そそりたつ 五層の天守
雲ながれ 遠き日に似つ
香くわしき そのおもかげを
茜さす 空にえがきて

いまだ歌わむ 千姫 千姫
うるわしのひと

手にたゆき 銀の鏡や
夕風は 吐息に似つつ
桜ちる ふたひら みひら
かなしみは 花明かりして
あえかなる すがたをうつす

いまだ語らむ 千姫 千姫
うるわしのひと

勢隠しの 杜は濃みどり
しらすぎの 一羽すがしく
おりたちて やすらうものを
西の丸 まひる静けく
おくれ毛も ほのかに匂う

いまだ 偲ばむ 千姫 千姫
うるわしのひと

第三章

こどもの祭

のじぎく咲いた 秋の日だ
姫路の祭りだ 青空だ
みこしをかつげ この肩に
大地をふもう この足で

ヤッサ ヤッサ
エンヤノヤッサ
ヤッサ ヤッサ
エンヤノヤッサ
エンヤノヤッサ

みこしががやけ 金いろに
稲もみのつて 穂を垂れた
ゆれゆれ ゆすれ
さらめけ ひかれ
姫路の祭りだ

ほくら祭りの
ほら とんでるよ
赤とんぼ

すすき揺れてる 秋の日だ
姫路の祭りだ 青空だ
獅子も舞え舞え 舞い狂え
仔獅子うかれて でんぐりかえり

ヤッサ ヤッサ
エンヤノヤッサ
エンヤノヤッサ
エンヤノヤッサ
エンヤノヤッサ

お面かぶった きみは誰?
天狗・ひよっこ 豆狸
手と手を つなげ
輪になれ おどれ
姫路の祭りだ
ほくらの祭りだ
ああ 柿の実が
わらってる

第四章

栄光の世紀へ

野をめぐる 峯はみどりに
瀬戸の海 ひかりみなぎる
いざ ひらけ とびらを 友よ
風かおり 胸はふくらむ
歩み出そう 友よ

大いなる 虹を架けよう
希望の 誓いの 熱いのちの
虹を架けよう

あたらしい国生みがある
あたらしい世紀がひらく
みよ

われらの町は晴れ 空は晴れ
にんげんのちえ きらめくところ
にんげんのちえ みのるところ
ここにわれらは未来をひらく
わが町 姫路 わが町 姫路

ああ
われらの町は晴れ 空は晴れ
幾十万の鼓動がとどろく
幾十万のいのちはうたう
大いなる 虹を架けよう
世界につながる 姫路の明日へ
わがものよ 旅立ちの用意はよいか
その足は きたえてあるか
その眸は もえているか
父はおまえに 勇気と信頼を
母はおまえに 愛とほげましを贈ろう
おまえがひらく あたらしい世紀の
あすをいのつて

野をめぐる 峯はみどりに
瀬戸の海 ひかりみなぎる
いざ ひらけ とびらを 友よ
風かおり 胸はふくらむ

ああ
われらの町は晴れ 空は晴れ
幾十万の鼓動がとどろく
幾十万のいのちはうたう
大いなる 虹を架けよう
世界につながる 姫路の明日へ
わがものよ 旅立ちの用意はよいか
その足は きたえてあるか
その眸は もえているか
父はおまえに 勇気と信頼を
母はおまえに 愛とほげましを贈ろう
おまえがひらく あたらしい世紀の
あすをいのつて